

2006年10月20日
MR/J40/06



UNITED NATIONS
UNIVERSITY

メディア用原稿
非公式記録

国際連合大学 広報部
〒150-8925
東京渋谷区神宮前5-53-70

Tel.: 03-3499-2811
Fax: 03-3499-2828
E-mail: media@unu.edu
Website: <http://www.unu.edu/>

報道解禁：2006年10月25日午前11時（日本時間）

共同編集者のベセリン・ポポフスキー（国連大学本部、東京）とのインタビューが可能です。ご希望の方は、国連大学広報部、担当：谷野（やの）（03-5467-1311、media@unu.edu）までご連絡ください。

児童兵士の問題をめぐって 新刊書：「国際的な犯罪責任と児童の権利」

児童兵士の戦争犯罪責任は、児童を入隊させた大人の責任であり、児童兵士については、裁判手続きを取らず、正義と児童の利益の両方に対応した方法によってその責任を問うべきである。ベセリン・ポポフスキーとカリン・アーツの共同編集による新刊書「国際的な犯罪責任と児童の権利」はこのように論じている（出版社：TMC アッサー・プレス、ハーグ、オランダ；販売者：ケンブリッジ・ユニバーシティ・プレス）。

要点：

- ・ 世界の30以上の紛争に直接関わっている18歳未満の戦闘員は約30万人。そのうち少女は約4割を占め、その多くが直接戦闘に携わっている。
- ・ 児童兵士は、通常は大人の兵士と共に戦うことを強いられるのだが、一部の子供たちは、「強制されたり、薬物を使われたり、無理強いされたりしたわけではなく、自ら進んで兵士になり、自分自身の判断で残虐行為を犯している」
- ・ 重要な課題：「戦争犯罪を行っている青少年を訴追すべきか？ 訴追すべきでないとするれば、武力勢力の長が児童兵士にもっと多くの残虐行為をさせる危険性があるのではないか？」
- ・ コンゴ民主共和国の紛争で武装勢力を支援する少女たちの大多数は、性的暴力を受けていると言われる。「少女たちは帰還しても故郷の地域社会から無視され、疎外されることが多い。彼女たちは暴力的で手に負えず、ふしだらだと思われている」
- ・ 子供たちは戦争犯罪裁判で重要な証人になることが多いが、その体験がトラウマを悪化させることもある。「子供だけに特定した保護措置を、法律と裁判手順に織り込まねばならない」、そして「社会福祉機関、裁判所、あるいは行政立法機関のいずれが行うにしても、あらゆる措置の中で…子供の最大の利益を第一に考慮すべきである」
- ・ 兵士として徴用されていなくても、過去10年間に武力紛争によって破壊的な影響をこうむった子供たちは何百万人にも上る。親を亡くしたり家族と離散したりした子供は約100万人、殺された子供は200万人、重傷を負ったり障害を負った子供は600万人、家から逃亡せねばならなかった子供は2,000万人を数える」

共同編集者

ベセリン・ポポフスキーは東京の国連大学本部「平和とガバナンス」プログラムの国際秩序と正義に関する研究のディレクターである。カリン・アーツはハーグの社会科学大学院大学の「国際法と開発」部門の助教授である。

国際連合大学は、人間の安全保障や開発といったグローバルな課題に関する知識の普及と人材の育成を目的として1975年に設立された国連総会傘下の独立機関。研究機関、シンクタンクとして、本部（東京）を拠点に世界各地に研究のネットワークを持つ

MEDIA ADVISORY